

展示場へ行こう!

4F

日本の科学衛星

展示場4F入ってすぐに、大きな地球儀があります。その地球儀のむこうがわに、大パネルがあり、たくさんの人工衛星の絵が描かれています。

これは、1994年以来20年近く、まるで老舗の串カツ屋のタレのように、バージョンアップしながらつくなってきた。日本の科学衛星の歴史パネルなのです。

パネルは、上ほど新しい衛星としてい

ます。また、絵は10分の1のスケールでそろえています。つまりここで10cmで描かれていたら、実際は1mということですね。

ひと目でわかるのは、最近の(つまり上にある)衛星ほど、どんどん大型化しているということです。それは、衛星を打ち上げるロケットの高性能化のためです。当初は人工衛星をあげるのがやっとだった日本のロケットですが、現在、使われているHIIA型ロケットでは、いっぺんにいくつもの衛星をあげられるようになっています。

また、目的でも地球の観測から宇宙の観測へ、そして月のほか太陽系天体の探査へと種類も増えているのもわかります。エネルギー源の太陽電池の展開方法や、望遠鏡を伸ばす方法などの進歩も各衛星の姿に現れています。

淡々と並べた図は、いろいろなことを教えてくれます。

ところで、日本の人工衛星で一番有名なのは「ひまわり」でしょう。しかし、このパネルには載っていません。これは、ひまわりが実用衛星であり、科学探査を主たる目的としていないからです。同様に放送や通信衛星も載せていません。でも、地上観測衛星など科学と実用両面の衛星も増えており、考えを変えないといけな

渡部 義弥(科学館学芸員)

